

平成23年1月20日（木）発表
北陸信越運輸局 交通環境部
消費者行政・情報課（木村）
（Tel：025-244-6116）

年末年始における旅行動向(利用実績)について

北陸信越地域（新潟・長野・富山・石川県）における年末年始（平成22年12月23日～平成23年1月3日、JRにおきましては12月28日～1月5日）の旅行・利用動向（各交通機関）について、各事業者からの情報をとりまとめましたので、お知らせします。
（一部発表済みの情報となります。）

《各交通機関などの概要》

（1）鉄道

◇ 管内JRの新幹線・特急列車は、JR 東日本新潟支社管内では対前年比3%増、同長野支社管内では2%増、JR 西日本金沢支社管内では4%増と好調に推移しました。

（2）高速バス

◇ 北陸信越管内を発着する高速バスの利用は、対前年比1%の利用増加となりました。

（3）貸切バス

◇ 貸切バスの利用は、管内各県において前年を上回る利用状況でした。

（4）佐渡航路

◇ 佐渡航路において、利用者実績は対前年比2%の減少となりました。昨年実施されていた「本土発乗用車往復運賃特別割引」の反動・天候不良による欠航などにより減少となりました。

（5）国内・海外旅行ツアー

◇ 旅行ツアーにおいて、海外旅行が好調に推移しました。

（6）スキー場

◇ 管内スキー場において、入込客数実績は対前年比7%の減少となりました。

（7）航空国際線定期便

◇ 管内の空港において、主要路線の利用客数は対前年比6%の減少でした。

1. 鉄道

<JR>(年末年始 12月28日～1月5日)

(1)上越新幹線及び新潟地区の主な特急列車

○年末年始期間中において、上越新幹線及び新潟地区の主な特急・急行列車の利用者は、全体で46万2千人となり、対前年比で3%増加しました。(下りの利用者 23万4千人 対前年比 4%増：上りの利用者 22万人8千人 3%増)

○なお、上越線では急行「能登」が平成22年3月で廃止となっております。

線区別	利用者数	対前年比
上越新幹線(長岡～越後湯沢)	281,000 人	2%
信越本線(長岡～直江津)	27,000 人	3%
羽越本線(新潟～村上)	46,000 人	19%
上越線(長岡～水上)	4,000 人	▲ 42%
ほくほく線(直江津～越後湯沢)	104,000 人	6%

(対前年比同日比較)

(2)長野新幹線及び長野地区の主な特急列車

○年末年始期間中において、長野新幹線及び長野地区の主な特急列車の利用者は、全体で39万人となり、対前年比で2%増加しました。(下りの利用者 19万5千人 対前年比 4%増：上りの利用者 19万5千人 対前年比 ±0%)

線区別	利用者数	対前年比
長野新幹線(軽井沢～高崎)	257,000 人	2%
中央東線(上諏訪～甲府)	95,000 人	± 0%
篠ノ井線(長野～松本)	39,000 人	6%

(対前年比同日比較)

(3)北陸地区(JR 西日本金沢支社管内)における主な特急・急行列車

○年末年始期間中において、主な特急・急行列車の利用者は、全体で42万人となり、対前年比で4%増加しました。

方面別	利用者数	対前年比
京都・大阪方面(サンダーバード・雷鳥号など)	199,000 人	4%
名古屋・米原方面(しらさぎ号など)	100,000 人	6%
直江津・東京方面(はくたか・北越号など)	121,000 人	4%

(対前年比同日比較)

2. 高速バス(12月23日～1月3日)

○高速バスの利用実績(北陸信越 ⇄ 東京・大阪・名古屋方面)については、北陸信越全体では対前年比1.1%増で前年を上回りました。(なお、富山 ⇄ 大阪 につきましては前年に比べ供給座席数が大幅に増えております。)

(発着合計による前年比)	新潟県	長野県	富山県	石川県	北陸信越
東京方面	▲ 2.4%	± 0.0%	1.2%	▲ 7.8%	▲ 0.6%
大阪方面	▲ 8.0%	2.5%	71.4%	—	11.2%
名古屋方面	6.8%	2.5%	13.1%	▲ 2.7%	4.2%
(計)	▲ 2.5%	0.6%	11.8%	▲ 3.7%	1.1%

(管内10事業者によるサンプル調査、対前年比同日比較)

3. 貸切バス(12月23日～1月3日)

○北陸信越地域の年末年始期間中における利用実績は、管内全体で前年を上回る利用がありました。ただ、事業者サイドでの判断では、確かに前年以上に貸切バスの稼働回数が増加しましたが、宿泊を伴うような長期間ではなく近場の短期間での利用が多くなるなど利用形態が変わりつつあることで収益率が低下しており、事業者感触としては良くないようです。

(1両あたりの稼働回数)	新潟県	長野県	富山県	石川県	北陸信越
平成 22-23 年・年末年始	2.97	2.06	3.01	3.24	2.76
平成 21-22 年・年末年始	2.56	1.75	2.91	2.74	2.39

(管内の新潟 161 事業者・車両数 1,754 両によるサンプル調査、対前年同日比較)

(事業者の感触)	非常に良い	良い	やや良い	前年並み	やや悪い	悪い	非常に悪い
北陸信越全体	0.0%	3%	19%	44%	8%	14%	12%

(有効回答数 156)

○事業者アンケートによれば、利用方面・利用目的として多いものは次のとおりとなります。なお、利用目的は、学校(クラブ・合宿)と冠婚葬祭での利用がどの県においても多く(約5割前後)占めています。

[左から多い順となります]

(新潟県)	【方面】	新潟・関東方面	【目的】	テーマパーク
(長野県)	【方面】	長野・関東方面	【目的】	スキー送迎・買物
(富山県)	【方面】	富山・関東方面・東海方面	【目的】	テーマパーク・温泉
(石川県)	【方面】	石川・近畿方面・富山・関東方面	【目的】	温泉・初詣輸送

4. 旅客船《佐渡航路》(12月23日～1月3日)

○佐渡汽船各航路を発着する旅客船では、前年比2%減となりました。また乗用車航送におきましても10%減となりました。昨年実施された「本土発乗用車往復運賃特別割引」による反動、ジェットホイルの欠航便が増えたことなどが減少要因と考えられます。

(欠航便数 カーフェリー：26便(H21)⇒16便(H22) ジェットフォイル：32⇒55)

(1)旅客利用実績

航路名		利用者数	対前年比
新潟～両津	カーフェリー	29,432人	7.4%
	ジェットフォイル	4,512人	▲39.5%
	(小計)	33,944人	▲2.6%
小木～直江津(カーフェリー)		804人	8.5%
合計		34,748人	▲2.4%

(対前年比同日比較)

(2)乗用車航送実績

航路名		利用台数	対前年比
新潟～両津		2,091台	▲10.4%
小木～直江津		139台	▲8.0%
合計		2,230台	▲10.3%

(対前年比同日比較)

5. 北陸信越地域発の国内・海外旅行ツアー(12月23日～1月3日)

○下表のとおり、事業者の感触としまして、国内旅行については厳しい状況が続き、海外旅行については状況が好転しています。

○なお、事業者によれば、国内旅行では、温泉・テーマパークに人気がありました。旅行方面としては関東方面が一番多く、次いで近畿方面が人気でした。海外旅行では、旅行先として、近場の、ハワイ・グアム・韓国に人気がありました。韓国は国際情勢の影響から伸び悩んだようです。

(国内旅行 感触)	非常に良い	良い	やや良い	前年並み	やや悪い	悪い	非常に悪い
北陸信越全体	0%	0%	13%	34%	35%	9%	9%

(海外旅行 感触)	非常に良い	良い	やや良い	前年並み	やや悪い	悪い	非常に悪い
北陸信越全体	4%	20%	20%	28%	16%	12%	0%

(管内の国内旅行23事業者(営業所)・海外旅行25事業者(営業所)によるアンケート結果)

6. 北陸信越地域のスキー場(オープン日～1月3日)

○管内スキー場における入込客数は、降雪量が少なくオープン日が遅れたことにより、対前年比7%減となりました。なお、降雪・天候に恵まれたところもあり、調査対象の管内約3割のスキー場で前年の年末年始より入込客数が増加しています。

(入込客数の対前年比)	新潟県	長野県	富山県	石川県	北陸信越
22-23・年末年始	▲ 4.9%	▲ 8.0%	▲ 14.9%	▲ 0.9%	▲ 7.1%

(管内の索道を有する52事業者によるサンプル調査)

7. 航空国際線定期便(12月23日～1月3日)

○管内の各空港における国際線の利用は、対前年比6%減でした。

	新潟県	富山県	石川県	北陸信越
(対前年比)	23%	▲ 15%	▲ 13%	▲ 6%

(管内空港 新潟：上海・ハルビン、富山：大連、小松：ソウル・台北・上海の6路線による調査、対前年同日比較)